

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立小中一貫校芦刈親瀨校		
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>各プロジェクト（校務分掌）において小中一貫教育に関する重点取組事項を設定し、学校評価と関連付けて成果の検証を行った。成果指標に達しなかった取り組みについては、改善策を今年度の取組に反映させていく。</li> <li>小中一貫教育については、プロジェクトを中心とした取組に加え、今年度は校内研究において、各教科における9年間を貫く学びの充実に取り組んでいく。</li> <li>働き方改革については、勤務時間の上限の特例を超えた職員がいた。今年度は業務効率化と職員の意識改革を更に進める必要がある。</li> </ul>		
2 学校教育目標	<p>ふるさとを愛し、未来を拓く、心身ともに元気な子どもの育成</p> <p>～「ともに」「つなぐ」小中一貫教育～</p>		
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学力向上</li> <li>②豊かな心の育成</li> <li>③部活動の在り方の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④不断の新型コロナ対策</li> <li>⑤小中一貫教育の成果の確認</li> <li>⑥生徒指導体制の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦保護者・地域連携の推進</li> <li>⑧多様な活動を促進するための教育活動や働き方の見直し</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
			達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師を80%以上にさせる。	●教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 ●どの教科においても主体的・対話的で深い学びのある授業を実践する。	B	・12月末時点でマイプランの成果指標を達成できた自己申告する教師は100%であった。しかし、保護者アンケートでは「芦刈親瀨校は学力向上のために授業を充実させたり指導方法を工夫したりしている」の数値が低い(69%)、改善に向けた手立てが必要である。	B	・県学習状況調査の結果に課題が残る。前年度と経年比較したり、各教科で数値目標を明確にしたりするなど、具体的な目標を立てて取り組んでみてはどうか。
	○学習規律の確立・充実	○児童生徒アンケートの「正しい姿勢で授業を受けている」「授業中、進んで考えたり、発表したりしている」の達成率を、年度当初より向上させる。	・学習規律一覧表を児童生徒に配付したり、教室に掲示したりして確認し、継続した指導を行う。 ・児童生徒が毎時間、学習規律について自己評価する場を設定し、定着を図る。	C	・12月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した児童生徒は70%であった。7月と比べて3ポイント下がり、目標を達成することができなかった。「授業中、進んで考えたり、発表したりしている」の数値が特に低いため(59%)、改善に向けたさらなる手立てが必要である。	B	・子どもたち一人一人が、学習に対して、受け身ではなく切磋琢磨に向かえるような指導の工夫が必要である。
	○自己学習力の育成	○児童生徒アンケートの「宿題や自主学習に進んで取り組んでいる」「学年にあった時間で家庭学習に取り組んでいる」の達成率を、年度当初より向上させる。	・「家庭学習の手引き」を作成し、懇話会で配付し説明する。 ・「自主学習の進め方(ノートの書き方)」及び「計画実行者」を作成し配付する。児童生徒の良い取り組みを掲示して紹介し、宿題や自主学習に対する意欲を向上させる。 ・定期的に「学びプロジェクト便り」を発行し、家庭での協力を得ていく。	B	・12月に実施したアンケート調査で肯定的に回答した児童生徒は78%であった。7月と比べて1ポイント上昇し、目標を達成することができた。「学年にあった時間で家庭学習に取り組んでいる」の数値が低い(75%)、改善に向けたさらなる手立てが必要である。	B	・子どもの質が変わってきたように思う。家庭ではゲームをしている子どもが多く、また登下校は保護者の送迎に頼ることが多い。家庭教育の大切さを学校からもさらに発信してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童生徒の規範意識や思いやりに関する質問で「当てはまる」と回答した児童生徒の割合を80%以上にさせる。 ○なかよしアンケートにおいて、「学校が楽しい」と答える児童・生徒の割合が90%以上を目指す。	・年間計画に沿った道徳教育の実践に取り組むとともに、教育活動における心の教育の充実を職員が意識する。 ・昼休みの異学年交流を毎月1回実施し、「思いやりの心」「責任感」「人と関わる力」等を育む。活動日ごとに振り返りの手紙を書き、ホールにほかほかレターとして掲示する。	A	・児童生徒の規範意識や思いやりに関する質問で「当てはまる」と回答した割合はどちらも80%以上であったため、目標を達成することができた。職員の画期的な指導実践ができていた。 ・12月の「なかよしアンケート」において、「学校が楽しい」と答えた割合が目標の91%を超えていた。異学年交流については、掃除や遊びなどで限定的に交流するにとどまっていたが、豊かな心を育てる素地はできている。	A	・「なかよしアンケート」において「学校が楽しい」と答えた割合は、中間評価、最終評価のどちらも目標値は超えているが、中間評価より最終評価が若干低くなっている。しかし、コロナ禍で制約があったものの2学期以降に異学年交流ができたところは評価できる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「何かあった時に学校に相談しやすい」と感じる児童生徒の割合を80%以上にさせる ○「いじめに対し、組織的に対応できている」と感じる職員の割合を90%以上にさせる。	・定期的に生活アンケートや教育相談等を行い、気になる児童生徒については職員間で情報共有を行う。担任だけではなく全職員で対応することを心がける。 ・月に1回「いじめゼロ宣言」の小中連携共同読み上げといじめ防止の取り組みを実施する。 ・職員研修やいじめ対策委員会を設定し、組織的にいじめ防止に取り組む。 ・心の教室相談員やSSW、SCIに児童生徒が相談しやすい環境を作り、教職員との情報共有を行う。	A	・1月の生活アンケート及び6月・11月に全児童生徒に教育相談等を行った。気になる児童生徒については生徒指導協議会等で情報共有を行うことで全職員で対応できるようになった。 ・「いじめゼロ宣言」を児童生徒が放送した後、各学級で確認した。12月は人権集会と併せて実施した。 ・職員研修により、いじめ認知について正しい認識を共有したり、いじめ対策委員会を開いて組織的にいじめ防止に取り組むことができている。	A	・今後も小さいヒアリングに対応していくことが大事である。 ・よりよい教育環境づくりアンケートによると、もっと先生とコミュニケーションを取りたいと思っている児童生徒や保護者がいるようだ。児童生徒や保護者の小さい意見や気づきに目を向け、いじめゼロをめざして取組をさらに充実させてほしい。
	◎小・中・中・高がともに高め合い、進んで行動できる児童生徒の育成	○なかよしアンケートにおいて、「あいさつ」「掃除」の項目で達成率を上昇させる。 ○行事・活動後の振り返りにおいて、自身の成長を感じたり、更なる成長を目指したりする記述ができる児童生徒の割合を年度当初より向上させる。	・小学部・中学部で、小中縦割りあいさつ運動(4～6回)や小中合同クレーン作戦(各学期)を共通実践する。 ・中期ブロックによる小中交流会(7年生が中学校での生活について、小6・小5に説明)をする。 ・体育大会での小中複数学年での応用競技や文化発表会での小学部の参加・参観、生徒会主催の異学年交流を行い、小中交流の充実を図る。	B	・新型コロナウイルス感染症防止のため、あいさつ運動や異学年交流は規模を縮小して実施した。委員会単位でのあいさつ運動や、低学年教室の高所掃除に中学部が協力するなどの活動を行った。 ・9月と12月の実施分を比較すると「そうじ」67%→69%、「あいさつ」72%→80%という結果となった。小学部、中学部ともに上昇した結果となった。 ・行事の経験を通して、学習面や生活面の成長に意欲をもつことができた。	B	・地域での挨拶は、1、2年生が上手にできていて上級生が元気がない。学校での指導だけでなく、家庭での教育、保護者の目配り・気配りをお願いしたい。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○家庭教育指針で「朝ご飯をしっかり食べる」の項目の回答を年度当初より向上させる。	・全学年において、年1回以上栄養教諭が参画した食育の授業を行い、食への意識の向上を図る。 ・家庭教育指針を全学年で年3回行い、1回目の結果をその後の指導に反映させる。 ・「食育だより」や学校HP等を通して、食の大切さに関する情報を保護者や地域に発信する。	A	・1回目の家庭教育指針で実態を把握し、特に結果が悪かった6・7年生に朝ごはんの大切さの授業を行った。「朝ごはんを毎日しっかり食べた」児童生徒は、6年生で73%から86%、7年生は69%から74%と向上した。 ・「食育だより」やHP等で情報発信を行ったり、食の大切さについて授業等で指導を行ったりしたことにより、全体的にも結果が向上した。	A	・今後も、健康を維持しながら学力の向上につなげてほしい。
	○健康・衛生に対する意識の向上	○健康衛生チェックを行い、衛生に対する意識を年度当初より向上させる。 ○家庭教育指針で「体を動かす」の項目の回答を年度当初より向上させる。	・通年で月2回程度健康衛生チェックを行い、基本的衛生習慣の定着を図る。 ・毎回のチェック結果をグラフ化し、保健室前に掲示したり、保健だよりに掲載し、より意識を高める。 ・意識が低い児童生徒に対しては、個別に保健指導を行う。 ・家庭教育指針を全学年で年3回行い、1回目の結果をその後の指導に反映させる。	A	・ハンカチ・ティッシュ忘れ、爪が伸びている人の人数は小学部では1学期平均71人/日から2学期42人/日、中学部では25人/日から2学期17人/日と中共に減少した。 ・9月のアンケート結果では、「体を動かす」の項目で自分から進んで体を動かした児童生徒の割合は58%のまま変化がなかった。この実態を踏まえ、小中ともに委員会や生徒会による遊びの交流を実施した。	A	・健康維持しながら学力向上を推進していくことが大事である。健康面の取組も引き続き大事にしていきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ○教職員意識調査において(職員アンケート)を実施し、多忙感のある職員の割合を30パーセント以内にする。 ○長期休業中の時間外勤務時間が30時間を超える職員を0パーセントにする。	・小学部は毎週金曜日、中学部は月曜日を定時退勤日に設定し、実行を促す。 ・毎月、業務記録を把握し、全職員が共有することで、業務改善への意識の向上を図るとともに、業務の効率化に取り組む。 ・プロジェクトの取組の充実を通して、学校行事等を担当だけでなく、組織として立案・準備・実行・振り返りを行う体制を整備する。 ・ICT利活用の工夫改善を通し、効率的で効果的な業務改善を推進する。	B	・8月11～17日の連休を除く5日間を学校閉庁日としたことにより、夏季休暇、年次有給休暇等の取得を促進を図り、心身ともにリフレッシュをすることができた。 ・時間外業務については、小学部は4月、6月を除き、平均45時間未満を達成することができている。中学部は8月以外は達成することができなかった。要因として、学校行事(体育大会、文化発表会の準備・指導)や部活指導が考えられる。今後、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、行事の精選やICT機器の利活用を図り業務の改善を図るとともに定時退勤日の徹底の必要がある。	B	・4月、6月の業務量が多いのは課題である。元気な子どもは元気な先生あってこそ育つものである。忙しい時期ほど先生が元気であってほしい。そのためにさらに業務改善してほしい。

評価項目	重点取組内容	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
			達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○小中一貫教育の充実・活性化	○プロジェクト部会の活性化や校内研究の充実を中心とした、小中一貫教育推進体制の充実	○保護者アンケートにおいて、「小中一貫による9年間の教育活動を充実させていると思う。」の項目の達成率を80%以上にさせる。 ○小中教員による交流授業や授業づくり支援の実施率を昨年度より向上させる。	・3つのプロジェクトで、小中一貫教育に関する重点取組事項を設定し、全職員で共通理解を図って取り組む。 ・各校務分掌の重点取組事項毎に成果指標を設定し、PDCAサイクルによる取組の改善を図る。 ・校内研において、小中9年間を見通した学びの充実の視点から、小中教職員相互の授業協力体制を整える。	B	・保護者アンケートの「小中一貫による9年間の教育活動を充実させていると思う。」の項目の達成率が73.4%で目標に達しなかった。コロナ禍で活動が制限されたことも要因だが、一貫校のよさを生かした活動のさらなる充実と学校だよりやホームページ等での保護者への周知が必要である。 ・学びの系統表の確立、小中教職員による乗入れ授業の実施、プロジェクト部会の取組と小中の協力体制が整い、その成果を発表することができた。小中交流授業の実施率も昨年度より向上した。	A	・学校は、小中教職員による乗入れ授業など良い取り組みがなされているように思う。コロナ禍で、学校の様子や取組が十分に見えない状況もあって、教職員と保護者の見取りに違いが生じているのではないかと、学校側から発信していることが十分に伝わっていないことも考えられる。保護者への伝え方を工夫してみてください。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力学習状況調査結果において、全国・県の平均を下回り、学力の低さが課題となった。全職員の共通理解と共通実践による授業力向上と学習規律の定着、家庭学習の充実により、学力向上を図る。</li> <li>小中一貫教育については、校内研として全職員で共通理解のもと取り組むことができた。小中の協力体制が整い、プロジェクト部会の取組と9年間を見通した学びの両面から小中一貫教育の充実を図ることができた。さらなる活動の工夫と保護者や地域への周知を丁寧に行っていく。</li> <li>働き方改革については、依然として時間外勤務時間の上限を超える職員が多数いて課題が残った。行事や業務の見直し・精選と職員の意識改革をより一層進めていく必要がある。</li> </ul>
----------------	--